

さんま通信



厚生中央病院だより 第56号 2019年

冬



2019年(平成31年) 新年のご挨拶

院長 櫻井 道雄

新年あけましておめでとうございます。

本年もよろしく願い申し上げます。

厚生中央病院は全国土木建築国民健康保険組合の直営病院として、また地域の中核病院として組合被保険者並びに地域の人々の健康と福祉を守るために1959年(昭和34年)5月に開院しました。年号が変わる本年、総合病院として開院60周年を迎えることが出来ました。

これまでに厚生中央病院は地域包括ケアシステム(高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送ることができる地域供給体制)の中心的役割を果たす病院として高齢化社会に適応した急性期病院を目指してきました。

そして厚生中央病院は在宅診療を支え、高度急性期病院やがん専門病院と地域との橋渡しの機能を持った病院です。

また、地域の総合病院として地域の将来に必要な周産期医療にも力を注ぎ、初期臨床研修指定病院、内科専門医研修指定病院等の認定を受け、若き医師の育成にも力を注いでいます。

これからも厚生中央病院は地域を支えるために、地域との連携を非常に大切にしていきます。皆様方の健康と福祉を守るため、約85名の医師をはじめ、スタッフ一同この地域を元気にしたいとの思いで働いていますので、本年もよろしくご指導の程お願い申し上げ新年のご挨拶といたします。



目次 contents

2019年(平成31年) 新年のご挨拶…… 1

高齢者のてんかんについて…… 2~3

2019年ヘルシースタジオプログラム…… 4

どうして?
さんま通信の

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る!』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

高齢者のてんかんについて

脳神経外科

部長 秋元 治朗

1. てんかんの定義・疫学

“てんかん”とはなんらかの原因で脳の神経細胞が過剰に興奮するために、突然、発作性の運動や感覚の異常が反復性に起こる病気です。突然白目を剥いて、泡を吹き、意識を失って倒れ、全身がガタガタと震えてしまう様な症状を起こすてんかん患者さんを一度はご覧になったことがあると思います。

てんかんは生まれつきの脳の病気によって生ずる子供の病気と考えられている方が多いと思いますが、70歳以上で発症するてんかん患者さんの方が10歳以下で発症する子供よりも頻度が高いのです。実際に日本の高齢者てんかんの有病者数は30~40万人であり、全てんかん患者さんの3分の1は70歳以上に発症しているのです。(図1)

2. 高齢者てんかんの原因疾患

小児のてんかんの多くは脳の発生異常が原因であり、全身痙攣で発症する全般てんかんが殆どです。一方、高齢者のてんかんは脳卒中やアルツハイマー病、脳外傷、脳腫瘍などの脳に何らかの病気が先行して生ずるものが多く、その病気が存在する部分が発作の焦点(神経細胞が興奮する部分)となって、その部分に特有な症状を伴って発症するものが殆どです。(部分てんかんとよばれます)。

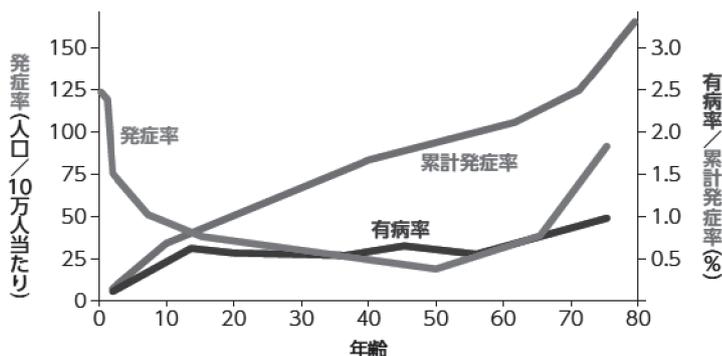
なかでも、脳卒中に続発するてんかんが最も多く、特に出血性の脳卒中に続発することが多いと知られています。その発症は脳卒中を起こして1~2年以内に発症するものが殆どであり、発症から7年を過ぎればてんかん発作を生ずる頻度は著しく低下するというデータもあります。ただ、高齢者でも原因不明のてんかんが3分の1程度あり、色々な検査をしてもてんかんの焦点がわからないことがあります。(図2)

3. 高齢者てんかんの症状

この様な脳疾患に続発する高齢者てんかんに特徴的な症状が、複雑部分発作と呼ばれるものです。急に動作を止めて、顔をぼーっとさせるという動作(意識減損発作)や、辺りをフラフラと歩き回ったり、手を叩く、口をモグモグするといった無意味な動作を繰り返す(自動症)などの症状が見られます。その後、意識が徐々に遠のいていき、意識障害に至ってしまいます。その間に体がガタガタと動く様なけいれんは伴わないことが多いので、てんかんと診断されるのが遅れてしまう傾向にあるのです。その病態に気づかないで放置していると、3割の患者さんが重積発作という意識がいつまでも回復しない重篤な状態に移行する可能性があるのです。ですので、この特徴的な症状を見た際に、ご家族がすぐに脳神経外科や神経内科の医師に診察を依頼し、複雑部分発作の診断にて対応できないと、患者さんは非常に重篤な状態に陥る危険性があるのです。(図3)

特に近年、高齢者の交通事故が多発しています。昨年5月28日に神奈川県90歳女性が運転する乗用車が次々と人をはねて4人が死傷した事故を記憶している方もいらっしゃるかもしれません。その加害者は3月に運転免許証を更新しているのですが、その際に義務付けられている判断力や記憶力を調べる検査では、全く問題なく優良ドライバーとして更新されていたのです。

さらに、近年注目されているのが、高速道路の逆走事故です。常識では考えられない事故ですが、近年増加



出典: Anderson VE, Hauser WA, Rich SS. Adv Neurol 44:59, 1986

図1:てんかんの年代別発症率(海外データ)

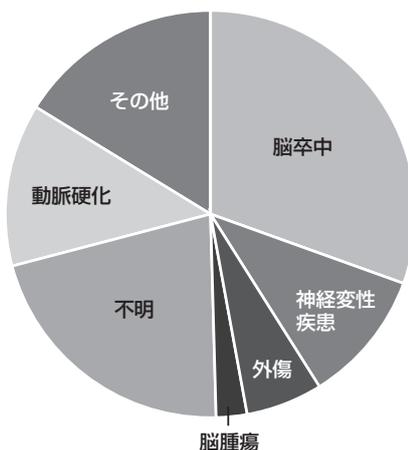


図2:高齢者てんかんの原因
(標準的神経治療:高齢発症てんかんより)

図3:複雑部分発作の主症状

自動症 ：口をもぐもぐする、身振りをする 動作の停止 自律神経症状：腹痛などが前兆として起こる。 嘔気・嘔吐、発汗、立毛、熱感、冷感、腹鳴、動悸、胸部圧迫感、頭重感、など 精神症状：既視感(デジャブ)、未視感(ジャメブ)、フラッシュバック、恐怖感 認知障害：記憶障害、言語障害 発作時にもうろうとして歩き回る
--

の一途を辿り、年間50件以上が報告されているのです。その運転者の3分の2は65歳以上の高齢者でした。飲酒酩酊者は2%、認知症や精神障害を有していた運転者は1割程度であり、83%には逆走しかねない様な病歴は無かったのです。(図4)

認知症460万人、軽度認知機能障害400万人の時代、国は運転免許の更新に対し、75歳以上からは従来の運転適性検査、視力検査に加えて、認知機能検査を義務づけ、その結果、16万人以上の高齢者が免許証を自主返納し、交通死亡事故の減少に繋がったことは事実です。今後、高齢者の複雑部分発作を的確に診断し、早期からの治療介入を行うことで、上記の様な不幸な事故をより減らせるのではないかと考えます。

4. 高齢者てんかんの診断

高齢者に対するてんかんの診断も他の年代同様に、問診、脳波、画像診断などによります。この中で最も大切なのが、問診です。決め手になるのは、やはりその特徴的な症状でしょう(図3)。ただ、御本人は発作前後の記憶が無いことが多いため、側にいるご家族や施設のスタッフなどが、どの様な発作であったのか、的確に医師に伝えられるか否かが重要になります。その為に、家族向けの“てんかんチェックリスト”(図5)を用いたり、ご家族にスマートフォンで動画撮影していただくことなどが有効になります。

病院にいらっしゃった後は、脳波やMRIを始めとした画像診断にて診断に至ります。ただ、初回の脳波で確実なてんかん波をとらえられることは決して多くなく、また、医療側においても脳波を的確に読影できる医師も決して多くはありません。画像診断も、脳卒中や脳腫瘍などの、てんかんの原因病変を見つけることはできても、てんかんの確定診断を下すことは困難なのです。

ですから、最も大切なことは患者さんの症状を見極めることであり、脳波でその傍証を得て、画像で原因を探るという流れで診断してゆくことになるのです。

5. 高齢者てんかんの治療

高齢者てんかんにおいても一般的なてんかんと同様に、抗てんかん薬と呼ばれる薬物療法が中心になります。小児期発症のてんかんに比べ、薬による治療効果が高く、90%の患者さんは発作が抑制されます。ただ、気をつけなければならないのは、高齢者ですすでに多くの薬を服用していたり、他の病気で肝臓や腎臓に障害を持っている方が多いということなのです。抗てんかん薬には沢山の種類がありますが、他の薬剤との相性(薬物相互作用)や臓器への負担度、さらに薬剤独自の副作用に留意した薬選びが重要になってきます。

6. まとめ

高齢者に特徴的なてんかんは、脳卒中や脳腫瘍に続発する複雑部分発作が大半であり、けいれんを伴わないことから、診断、治療が遅れ、重篤な発作につながる場合があります。その特徴的な症状を知り、てんかんに詳しい医師の診療のもとに、的確な抗てんかん薬を選択し、規則正しく服用することで、9割の患者さんが克服できる病態であることを知っていただきたいと思います。

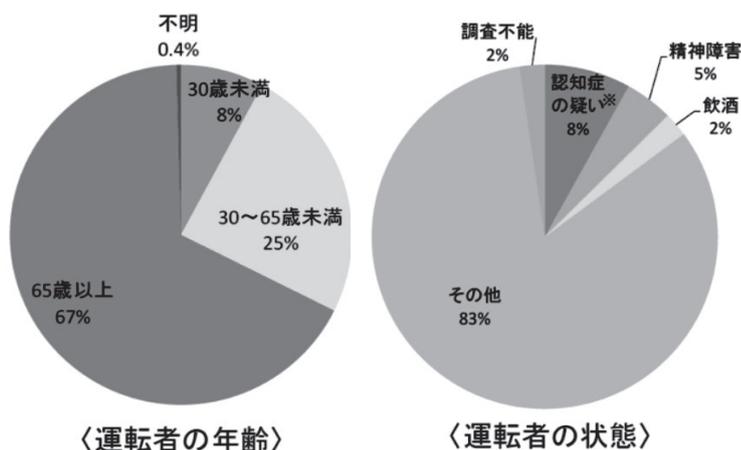


図4:逆走事故の運転者の状況

こんな症状ありませんか?

※ □に、症状が現れる頻度(A~C)を記入してください。
 A:月に1~2回ほど B:週に1~2回ほど C:週に3回以上

□ 1点をずーっと見つめ、ぼーっとしているときがある。

□ ごちらの問いかけに答えが違ってこなかったり、まと外れな答えが返ってきたりすることがある。

□ 口をもごもごしたり、手をもごもごしたりして意識がはっきりしないときがある。

□ 動作が止まっていることがある。

□ “何をしてたか覚えていない”というときがある。
 (いつの間にか移動していた等)

上記は、てんかんの複雑部分発作としてよくみられる症状です。発作が起きていたときに事故を招いたり、放っておくと大きな発作につながったりすることもあります。適切な治療によって、発作を抑えられる可能性がありますので、医師までご相談ください。

エーザイ株式会社

図5:高齢者のてんかんチェックシート

2019年ヘルシースタジオプログラム

「ヘルシースタジオ」では、みなさまの健康をサポートするために、厚生中央病院との共催プログラムをご用意しております。ぜひお申込みください。

*親子クッキングは1組500円(全国土木以外の方は1,000円)でご参加いただけます。

4月20日(土曜日) ウォーキング



福山医師と歩く
目黒区の

「坂めぐり」ウォーキング

健康寿命を伸ばそうプログラム

専門家による『正しいウォーキング』で坂道も怖くない! 『健脚』は『健康のちと!』

大好評だったウォーキングプログラムが帰ってきました!!

*雨天時は 本館3階講義室での開催になります。

🕒 10:00~13:00 👤 募集人数25名

傷害保険・ランチ付き

5月10日(金曜日) 骨を強くするために

『食事でカルシウムを上手にプラス』

カルシウムを上手に摂るためには
どんな食材がカルシウムを多く
含まれているかを知ることから
はじまります。
カルシウムの吸収を高める秘訣
もお伝えします!



🕒 10:00~13:00 👤 募集人数20名

6月8日(土曜日) エクササイズ

『貯筋運動』

使えばなくなるお金の貯金!
使ったためよう筋肉貯筋!
歩いているだけでは、健康になれない
超音波測定で筋肉の状態をみながら、
1日15分の運動で日常生活が
より快適に!



*開催場所は本館3階講義室です。

🕒 13:30~15:30 👤 募集人数30名

7月上旬(土曜日) 夫婦限定プログラム

『頑張らない!ヘルシー料理教室』

減塩料理はおいしくない、手間も
お金もかかる...と思われる方も
多いと思います。
注目の調味料で簡単・おいしい・
お手軽なヘルシー料理をご紹介します!



おいしい健康 共催

🕒 10:00~13:00 👤 募集人数20名

8月23日(金曜日) 親子クッキング

『ピザを作ろう!』

3歳以上のお子様1名と
20歳以上の保護者様1名
のペアでのお申込みとなり
ます。
午前か午後をお選び下さい。
(各回内容は同じです)



🕒 ①10:00~12:00 ②13:00~15:00 👤 各回10組

9月7日(土曜日) ヨガ

『ストレスフリーヨガ』

ReebokONEアンバサダー
の京乃ともみ先生を迎え、
『呼吸』をメインとした
ヨガで日頃のストレスを
リリースしてみませんか?



*開催場所は本館3階講義室です。

🕒 10:00~12:00 👤 募集人数30名

お申込み・お問合せは

全国土木建築国民健康保険組合
保健事業部 管理課

☎ **03-6674-1671**

(平日 8:45~17:15)

右記のQRコードからも
お申込みいただけます。



●先着順での受付となります。

申込多数のためキャンセル待ちになる場合のみこちらからご連絡させていただいております。

※各コース定員に満たない場合は開講しない場合もございます。その場合は全国土木建築国民健康保険組合からご連絡いたします。

MAP

総合病院厚生中央病院 別館4階 ヘルシースタジオ
(東京都目黒区三田1-11-7)



JR 恵比寿駅下車(東口)
徒歩5分
東京メトロ日比谷線恵比寿
徒歩7分
JR 目黒駅下車(西口)
徒歩10分